

重点取組分野		具体的取組
道徳教育		児童主体のたてわり活動にしてい。異学年のつながりが深まるように高学年児童が計画し、実践する。地域とふれあい「人」とのつながりを大切にした学習活動を継続、推進していく。道徳教育の充実を図り、「礼儀」「向上心」など重点的課題に取り組んでいく。
担当	人権 道徳部	

豊かな心に関わる本校の状況		今年度の目標
○健やかな体に関わる児童生徒の実態として、児童の状況としては、子ども間の関係もよく、素直で人に対して優しい児童が多い。一方で集団に適応できない児童もいて、その対応・支援を必要とすることが多い。 ○Y-Pアセスメントからの分析では、各学年ともに自己評価で中心に集まる傾向がある。平均値の児童が多い。一方で登校支援が必要な児童の中には、低自己評価の児童の分布も見られる。全体的には自己肯定感も高まりつつある。 ○全国学力・学習状況調査の結果に基づく、児童生徒の状況では、自己肯定感が全国・県の平均値より、高い状況にある。 ○自己肯定感を高め、誰、一人も取り残すことがないように居場所づくりに努める必要がある。 ○児童の中には、集団とのコミュニケーションが苦手で、興奮すると暴言を言ってしまう児童や、学習に集中できず離席してしまう児童が数人いる。		①全校遠足や児童主体のたてわり活動にし、異学年のつながりが深まるように計画、実践していく。②地域とふれあい「人」とのつながりを大切にしてい。③Y-Pアセスメントの活用と授業実践をしていく。
目標を実現するための具体的行動プラン		
上 半 期	○学校の教育活動全体を通じた道徳教育に関する具体的な手立てとしては、日々の道徳科授業の充実を図る。 ○1年間の授業参観に道徳科をいれ、保護者に公開する。 ○育成を目指す具体化した資質・能力と関連付けた具体的な手立てとして、年度当初に各学年・ブロックでの取組、目指す子どもの姿の確認をしていく。 ○算数科の重点研究のさらなる充実を図る。 ○子どもが自尊感情を育み、自他をかけがえのない存在と実感できるよう「縦割り活動」の充実を図る。こどもの国への全校遠足の実施する。 ○子どもが主体的に学び、成長を実感できる行事等を実践する。	
	○引き続き、縦割班での活動を実施する。 ○1年間の授業参観に道徳科をいれて保護者に公開する。 ○算数科の重点研究のなかで授業改善することによる子どもたちの変容をみていく。 ○学校の「いじめ防止基本方針」について全職員で共通理解し、いじめの未然防止に努めると共に、いじめに対して全職員が「絶対に許さない」姿勢でチームとなって対応してい。アンケートや個人面談など様々な機会を通して、いじめの早期発見、早期対応に努める。 ○特別支援教育の充実を図るために、個々の対応・支援の見直しを行う。	

重点取組分野		具体的取組
健康教育		①子ども一人ひとりが健康診断や体力・運動能力調査の分析に基づいて、規則正しい生活を送ろうとする姿勢を培う。体を動かすことだけでなく、心の健康についても触れていく。②運動委員会を中心に、運動に関わる集会や週間を定期的に行ったり、全校朝会や朝の会で体操に触れることで楽しく体を動かす機会を設定し、日常的に運動に取り組む態度を養う。
担当	体育部	

健やかな体に関わる本校の状況		今年度の目標
○横浜市体力・運動能力調査からの分析では、男女ともに市、全国平均値より高くなっている。 ○運動できる時間があれば、主体的に取り組める資質・能力があると思われるので、さらに学びの持続を考えていく。特に体幹を鍛えるストレッチを中心に取り組む。 ○これまでの学校の取組状況として「柔軟運動」を取り入れていた。今年度は、昨年度に引き続き、朝会で教師が子ども達とともに柔軟に取り組んだり、朝の会などで定期的に取り組んでいったことで、ストレッチに対する子供たちの興味関心は高まった。 ○休み時間や放課後など校庭で遊ぶ児童も多く、日常的に遊びを通して体を動かしている児童が多い。		○基本的な体力の向上を目指す。○怪我の予防・病気の予防に努める。 ○進んで運動し楽しむ力を育てる。
目標を実現するための具体的行動プラン		
上 半 期	○年間6回程度の体育朝会で教師が中心となってストレッチに取り組む。 ○朝の会などの時間を使って、各クラスでストレッチを行う。 ○学校保健委員会では、校医の先生に動画出演していただき、心の健康について学習する ○運動会などの内容を工夫して、主体的に取り組み、楽しめる活動にしてい。	
	○日々の体育の授業の中に、ストレッチ運動をとりいれたり、子どもたちが興味・関心をもって主体的に取り組む活動を多く取り入れたりしていくことで健やかな体の育成につながる資質・能力を育んでいく。 ○玉入れ大会やドッジボール大会などの機会を設け、休み時間など協力して取り組む活動を実施する。 ○できるだけ、日常的に体を動かす機会を増やしてい。	

重点取組分野		具体的取組
授業力向上		主体的に児童自らが興味をもち、自分事として捉え、粘り強く考え説明し合えるように、算数科の重点研究を進め、問題を解決する力を養う。見方や考え方を働かせ、資質・能力を高めるために、問題解決に向けて見通しをもち、協働して学べる手立てを考え取り組んでいく。重点研究で学んだことを日々の授業に生かしてい。
担当	授業改善推進部	

学力向上に関わる本校の状況		今年度の目標
○課題としてR6学習状況調査(算数)において学力が特に高学年において横浜市平均以下である。また、C・D層の子どもがクラスに半数いる現状である。そして、知識・理解の習得を最優先として授業を進める傾向になってしまう。 ○子どものメタ認知(自分の考えを客観的に見つけ調整する能力)が働いている様子があまり見られない。 ○重点研において算数の研究が3年目となるが、子どもたちが主体的に学ぶことができるような手立てを考えたり、お互いに授業参観をしたりするなど、よりよい授業づくりをしようとする風土が根付いてきている。 ○既習事項を生かしたり、多面的に考えたりして問題解決ができる力が弱い。		○自ら未来を切り拓く子～自分を見つめ 自分で問いをもち 学びを深める子どもの育成～という研究主題に向かって授業力向上を目指してい。
目標を実現するための具体的行動プラン		
上 半 期	○チーム学年経営を生かしながら、専科の専門性を含めた授業改善・授業力向上を図る。日々の授業の振り返りや児童の様子を「学年研」「ブロック研」で資質・能力の変容などを把握し、共通理解する。 ○年間を通して学習プランを考える。 ○本校の実態(資質・能力)にあう計画を位置づける。 ○生活科や総合的な学習の時間、算数科の重点研究を通して育てる資質・能力と課題解決能力の育成を意識し実践する。 ○問題解決学習を通して、統合的・発展的に考え、新しい知識を創造できる子をめざす。	
	○生活科や総合的な学習の時間、算数科の重点研究を通して育てる資質・能力と課題解決能力の育成を意識し実践する。 ○下半期は、学力向上と学習内容の充実のためにiPadの有効活用を推進する。 ○ICTを活用した外部への発信やICTを活用することによる校内業務の円滑な運営を図る。今後の課題として、個別最適な学びと協働的な学びの一体化のよりよい方法をより深める必要がある。 ○集団に適應できるような個に応じた特別支援教育の充実を図る。	